小学校の事例 手稲区 手稲中央小学校

学校全体でエコキャンペーンを展開。節電行動が自発的にとれるように。

委員会主導で、児童が自ら節水キャンペーンという取組内容を決定。
結果が目に見えることでやる気と工夫が生まれる。
意見を出し合い、成果を発表することで進化していく取組に。

はじまり 委員会が主導し 全校で取組む

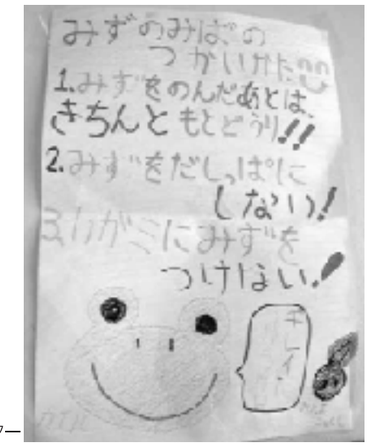
本校では平成22年度から、5～6年の児童による委員会活動として「エコ委員会」が発足した。

エコ委員会では、エコに関するアイデアや意見を出し合い、全校に広める活動を行っている。一年間をとおして活動し、年度末には活動を総括し、反省点を踏まえて次の活動へと発展させていくことをねらいとしている。

委員会ノート

内容 節水キャンペーンを展開

まずは担当教員が、節電・節水、ごみ減量や分別、省資源（暖房）など、エコに関する取組の指針を提示。その中から、前期は節水キャンペーンに取組むことを委員会で決定し、以下のような展開方法を考え、実行した。



節水ポスター

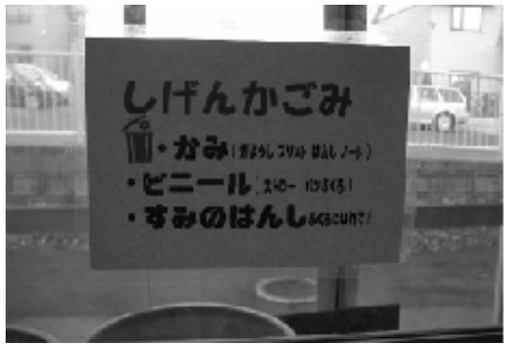
1. 水道メーターを見て、水の使用量をチェックする。
2. 節水キャンペーンをPRする。
   委員会でPR内容を話し合い、全校朝会でキャンペーンの実施を伝え、1ヵ月の使用量を報告する。
3. 節水のアイデアを全校から求める。
   5～6年生は学級会を開き意見を提出。
   1～4年生は委員会で案を発言。
4. 出てきた意見をまとめ、全校に発表する。
   委員会で決定した取組を発表し、全校で実行。
5. キャンペーン中のエコ行動を継続して実行する工夫を考える。
6. 1ヵ月の節水キャンペーンの成果を発表する。
7. よりよい方法がないか、もう一度考える。
   他の取組も考える。

効果 自発的な省エネルギー行動に

小さなことから「何か自分たちができることはないか」と考え、自ら動く力が育まれている。

高学年は特に節電への意識が高まり、学校での委員会活動の話し合いの時間や作業をする時間について、「レッツ省タイム」というテーマを設けた。これにより、電気使用量を減らすために活動時間を短くすることを心がけるようになり、教員の呼びかけはなくとも、廊下の照明はほとんど消されるようになった。

委員会活動全体の効果については、これから明らかになるが、今後の進展を期待している。



資源化ごみの分類を表示

委員会作成のごみ箱

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

今回は、まず7月までの活動を委員会担当の先生から提案して具体的にスケジューリングしてみました。そして後半は子供たちが考えて活動をしています。

本校では、子供たちに理解してほしいこととして「この学校がエコな学校になるには、エコ委員会の活躍が必要」「エコ委員会の一人一人の意見が必要」「全校児童がエコをできるように活動を考え、実施していきましょう」と投げかけたことで、スムーズに取組めました。ゴールだけでなく、活動自体を楽しめるようにすることで長続きさせられるのではないかと思っています。